

地方経済情報 Weekly No.389

「緑の流域治水スタディツアー」始めました ～球磨川で流域治水を“自分ごと化”する旅～

1. 「緑の流域治水」を知ってもらうスタディツアー

当研究所は、令和2年7月豪雨で被災した球磨川流域の持続的な発展を目指す産官学共同プロジェクト「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」※1に参画しています。その一環で、流域治水の技術や考え方に加え、地域資源や産業と連携した取組みを学ぶ「緑の流域治水スタディツアー」（以下、ツアー）を企画し、JTB熊本支店にて販売を始めています（左下チラシ）。

このツアーは、豪雨時に球磨川への水の集中を減らしたり、氾濫や被害をできるだけ防ぐ「雨庭」や「田んぼダム」などの治水技術と、「生物多様性」や「森林管理」などとの相乗効果を上流から下流までのスタディサイト（以下、サイト）で学びます。流域治水のスペシャリストがガイドとして同行し、サイトでの説明は住民や高校生が行い、地域や企業が主体となった「緑の流域治水」の考え方や技術について身近に学ぶことができます。

2. 「緑の流域治水」を“自分ごと化”するきっかけに

7月は県内のみならず東京都や兵庫県などから、企業やNPO法人、親子連れなど様々な団体が参加しました。参加者にはサイトで学ぶ前後にアンケートを実施し、「緑の流域治水」についての意識の変化を尋ねています。多くの方が「緑の流域治水」に関する理解が深まったと評価しており、ツアーへの参加が“自分ごと化”する契機となっているようです（図表1）。

3. 「緑の流域治水スタディツアー」をぜひご体験ください

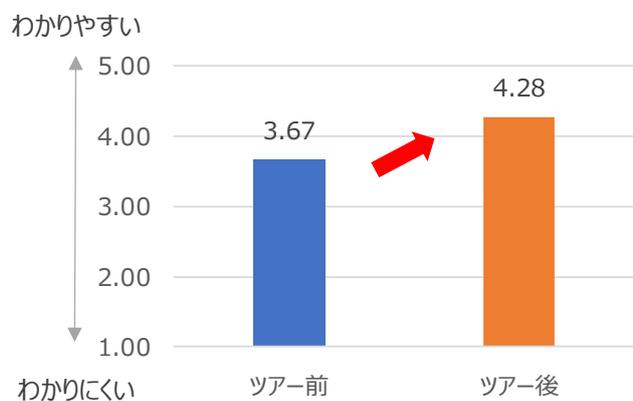
国土交通省によると、令和2年までの10年間、1回も水害、土砂災害が発生しなかった市町村は全国で41団体しかないそうです。気候変動の影響で、水害により道路の通行止めや避難など、社会活動が停滞するリスクが増えています。本ツアーは、「緑の流域治水」の考え方や手法を身近に感じていただけますので、水害リスクへの対応を考えるきっかけづくりに、ぜひご参加ください（関心のある方は、ぜひ下記ホームページをご覧ください）。

【当研究所ホームページ 緑の流域治水スタディツアー】 <https://www.reri.or.jp/studytour/>

※1 JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）から令和3年度に採択を受けた「共創の場形成支援プログラム」（地域共創分野・本格型）

詳しくは QR コードからご覧いただけます。

図表1 「緑の流域治水」の考え方と手法について



(備考) 回答者...7月のツアー参加者(43名)

担当：事業連携部 兼 研究開発部 部長 宮野 英樹